

「遊育」のススメ

1. 教育と遊育

2000年
前後から
大人は 造語
〇〇遊びをします
ねらいは です
↓
「自分から
やりたい」
(子どもを語る)
A
きたない(K)
うるさい(U)
子どもの本質
子ども時代を失う.

**「子どもの大人」「
翠信といいく**

「教育」
(N°1) ↑
↓ 「遊育」
子どもの世界
(only one)

子どもには
自己角力がある
信頼感

遊びで育つ子どもの特徴
遊び+名詞と「遊ぶ」動詞のちがい
やつまつたまつ 本人の内側から出る物の
が始まるすべての行為.
ひとり人づかう.
おもはされていいる子がいる
「善も悪も内にされている」
「自由おもひいやで
おもひはしていよいよ」
その子の内面による. 時に相手を傷つける.
その子の世界観がある
社会全体でAKUをいやがる
子どもを可愛いがめてくれる社会に感じられない
児童期以後にしかできない
「主作」は誰かだ. 教育 教える・教育する側の位置感
大人の教幼
遊び 目からはじめる・本人(大人も)
育とうとする行為をもの
おもしろい!
やさしい!
善心 正誤
価値感
快・不快 情動
非認知能性
やつまつたまつ 素質 性格 環境
生きている実感: 私の世界は私の命を回復させていく.
but: 大人が期待する形に沿わなければならぬ

2. 「遊ぶ」で 脳科学する.

価値感モード
情報を統合する.
木の根
経験豊か
神経系のストラクチャ
がつなぐ
体から脳へ
大脳辺縁系は
生物としての
生涯の生きがいをもつ
外へ出せ!!
程の時代
親も知らないでいい
3. 現代子ども事情

○ ① 子どもは「オレ」
「オレ」で、教育者
いつ自分の
世界で生きているのか?
取り戻せるのか?
・アインテライセ
育む
子ども時代の記憶は
（学校）

○ ② ③ ④ ⑤
私は私といふ言ひ方
アインテライセの正体は言ひ方
扁桃体の隣は海馬
快・不快
うつしゆ
快・不快 情動を動かす
不可欠.

「私が生きる」
「生きる喜びがある」
不十分と生活に付けて
重い物の感
あらゆる動物にある。 **「生きいく核になる」**
・ 2~3才 9割 9才 大人同様
看桃体(精動) 生命としての本質的なる
・ 26才くらいまで
ゆっく
十分にネットワークできません。
完了期を迎えよう.
基礎となる神経、學い・おもしろい!で刺激
学校の体力測定は筋力
自律神経系・免疫系・内分泌系
複数に絡みあう。 → 情動.
自律神経が育つこと
免疫系が育つ
内分泌系が育つ
生身を分かつものを
センサーで感知する

→ 外から見えやすい
種として
生き残る.

「不思議なでき事は」 → 「施設」
「外でやること」
「おもしろい!! 本人から車両にいく。
「快いの言ひ憶て」 手をかざすところへいく。

「大人だから
できること」

（当者性を
うばかない）

「ホジイフ」と私「まーいか」

「ネガティイ」と私は「モラーダ」

① 乳幼児期は、生涯の基盤の時期

○3者の大人が
伝えていく。
発信していく

② 親は支援の対象ではなく

育ちを支援する同士

③ 3人の大人からできること

↓
子どもも価値あり

評価しない

・その人その人
といふ3者

最後まで
直面をあつから

ちゃんと育むよ

おのれ ちゃんと育むよ

親だからできない
ことモアたくさんある

○2は
教科書上、下、

山か子には
○3の大人が
いるよ

まごの子には
○3の大人が
いるよ

⑥ ゴロゴロして
どうやって育る?
どう伝えていく。

・子どもの本当の育ちでなくんだどう

「うそでいいほし」

驚い!! かすごく下切

まごりか驚きしうにしていく～

「施設」 学び場をつけていく。

→ かたへ
言う